

第18回 雪のラブレター募集(入賞作品)

【恋文の部】

賞	最優秀賞
作品	初恋を知らせる長いメールよりたった一言声を聞かせて
作者	ベンジャミン
住所	兵庫県
講評	これは、恋人にあてたラブレターでしょうか？ もしかしたら、離れた街にいる子どもを思う、親の気持ちを表したものかも？ いずれにせよ、簡潔にして明瞭で美しく、声に出して読むとよりその良さが際立つ、素敵なラブレターだと思いました。

賞	優秀賞
作品	夜の雪道。銭湯帰り。手拭いを振り回し凍らせる父。もう一度見てみたい。
作者	シナモン
住所	東京都
講評	銭湯帰りの雪道。幼い息子を喜ばせようとして、手拭いをブンブン振り回してみせるお父さん。その優しくお茶目な様子と、瞳を輝かせて驚く息子さん(ですよね?)の姿が目には浮かびます。最後の一文が「もう一度会いたい」ではなく「もう一度見て見たい」なのは、お父さんがご健在だということでしょうか。親孝行してあげてください。
作品	雪舞う日コンビニのベンチで友人と食べた熱々のおでん。白く吐く息が故郷を離れるカウントダウンのように思えて何だか悲しい。
作者	碧豪
住所	宮崎県
講評	コンビニのおでんをベンチで食べるシチュエーションは、失礼ながら画としてはまったく美しくありません。それが、「故郷を離れるカウントダウン」という言葉がつくことで、切ないだけでなく、不況にあえぐ地方都市の閉塞的な空気と、そこに生きる若者の息づかいまで聞こえるような、現代を映す深い作品になったと思います。

第18回 雪のラブレター募集(入賞作品)

【恋文の部】

賞	佳作
作品	こっちの雪はふかふかだよ。ぎこちない姿勢で斜面を滑るきみに叫んだ。板の先がぼくのほうを向く。きみは知らないだろうな。やわらかい雪は滑りづらいんだ。でも転んだって痛くない。転んだきみの手を握って助け起こす。イメージはできている。
作者	くまがい
住所	埼玉県
講評	優しい顔をして下心いっぱいラブレター。なるほど！ 作者はかなりの策士ですね。読んでいて、非常に納得しました。こういうユーモア溢れる作品は大好きです！
作品	やはり雪コートに忍ばせたカイロにあなたは気づいたかしら
作者	ほほほ
住所	兵庫県
講評	優しくて温かくて愛情いっぱいの、とても素直な作品。何度読んでも心が温まる、本当に素敵なラブレターです
作品	傘の雪降り落としたら待ち人は来ない気がして二センチ積もる
作者	案山子の子
住所	新潟県
講評	傘に積もった雪というのは、実は応募作にはよくあるテーマです。でもこの作品は、よくありがちな「うん、今来たところ」と嘘をつく——ということではなく、ちょっと捻って、待っている人の想いを描いているのが新鮮でした。これ以上積もったら、雪も自然に滑り落ちていきそうですけど。

第18回 雪のラブレター募集(入賞作品)

【恋文の部】

賞	入選
作品	その人が出演する演奏会に行きたいのに私は臆病でした。電車に乗った後でさえ迷いがありました。けれど窓ガラスの向こうに雪がはりついて外も見えないほどの光景が、私の想いをまっすぐにしたのです。雪国の女は光を見つめて進むのよ、とささやきかけられて。
作者	オオハクチョウ
住所	山形県
講評	これはラブレターというより、自分へのエールというか、自立宣言のような感じですね。読んでいて、私自身とても勇気づけられました。最後の一文が美しく力強くて、大好きです。
作品	雪の舞う滑走路で君はキビキビと飛行機に荷物を積み込んでいた。一つひとつ心を込めて、お客様の思い出を積み込んでいた。高校を卒業して今年で10年目。雪国育ちの君が大都会で一生懸命生きている。雪の舞う中、母ちゃんは涙があふれて止まらなかった。
作者	かわぼん
住所	山形県
講評	飛行機の窓から、働くわが子の姿が見えたのでしょうか？ お母ちゃんの誇らしさが伝わってきます。だけど普通の旅客機はコンテナ積載で、荷物を個別に積み込むような小型機は、離島巡りのようなものしかないはず。ここはどこ空港なんだろう？ と、いろいろ疑問も生じます。そのあたり、誤解を与えないように、舞台や情景をもっと具体的に書いてくれたら、佳作になっていたと思います。
作品	慣れぬ雪道で派手に転び、一瞬記憶を無くすも、彼の車に乗り込む。降りる時に傘がないことに気がつく。新しいのに！高かったのに！迎えに来なくて良かったのに！と文句を言った翌日、彼の車に私の傘。責任感じ、私が転んだ近くを必死で探してくれた彼に感謝。
作者	みゆき
住所	東京都
講評	「一瞬記憶を無くす？」「彼に文句？」「しかも迎えに来なくて良かったのにとまで！」と、怒濤のように繰り出される「私」の行動に半ば呆れつつ、笑ってしまいました。優しい彼を、どうぞ大切にしてください。
作品	「大丈夫？」心配LINEが 嬉しくて 本当は余裕で 出勤できるけど
作者	こっぺばん
住所	鹿児島県
講評	「本当は余裕で 出勤できるけど」というフレーズが、さりげなくカッコイイ。ごく普通の言葉で、ごく普通の状況を描いているだけなのに、言葉の選び方にセンスを感じました。
作品	出勤前、車の周りをきれいにかいてある雪。夜勤明けのその足でかいてくれたんだね。君はすやすや寝息をたてて寝ている。
作者	島根のぼん太
住所	島根県
講評	これは、パートナーを思いやるその優しい行動自体に、賞をあげたくなる作品。言葉を選ぶ必要のないくらい、ストレートに感動できる恋文だと思います。
作品	卒業間近、高3の古典の授業。淡雪が舞う校庭を窓越しに眺め、「ましかばまし」と口遊ぶ。反実仮想の恋を映すひと時の雪硝子。
作者	ゆかり
住所	静岡県
講評	「ましかばまし」という懐かしいフレーズに、私も高3の頃にタイムスリップした気分になりました。「口遊ぶ」「雪硝子」など、ちょっとした表記のこだわりも全体のトーンに合っていて、文学少女らしさが出ています。

第18回 雪のラブレター募集(入賞作品)

【恋文の部】

賞	入選
作品	吹雪に耐えるふたりのリフト。板だけそっとキスをする。
作者	見澤由美
住所	埼玉県
講評	ペアリフトで、二人の履いたスキーの先が触れあう光景を、「板だけそっとキスをする」と表現したセンスに脱帽です！
作品	大学の冬休み。地元に戻り、駅を出ると雪が降っていた。マフラーに顔をうずめ、駅前のいつものコンビニに入る。お茶を手にとってレジに向かうと、バイト中の彼と目が合った。彼は「おかえり。寒かったやろ」と笑った。「ただいま。ちょっとね」と私も笑う。
作者	熊崎夏南実
住所	大阪府
講評	とても丁寧な描写に、好感が持てます。一つひとつの言葉、短いセンテンスなど、とても良く出来た作品だと思いました。
作品	でき過ぎの ドラマのように 降ってきた みぞれに貰う キスのきっかけ
作者	香月
住所	千葉県
講評	わかります。このタイミング！ 読みながら、私の脳内ではドラマチックなBGMが流れ出しました。
作品	さっきまでぐずっていた背中の子が、空に向かって小さな口を開けてきゃっきゃっと笑った。わたしも思わず真似をした。雪ってこんなにおいしかったんだね。
作者	ここまる
住所	宮城県
講評	雪にご機嫌を取り戻した赤ちゃん。可愛い笑顔が目には浮かぶようです。健やかに育ちますように！
作品	私達が居なくてもスタッドレスに替えてね。来年からは単身赴任。雪はただただ心配の種になるけれど。せめて今年は子供達と雪遊びをしよう。
作者	転妻二児の母
住所	福島県
講評	来年から単身赴任になるお父さん。家族を乗せる時は安全第一だけれど、自分一人なら、横着してタイヤの履き替えもスルーしてしまうかも……。夫を心配する妻からの恋文に見えて、家族を大切にすする夫の人となりもさりげなく描かれており、読んでいるこちらも優しい気持ちになりました。

岡崎 由紀子氏 (脚本家、山形市出身)

審査員: 日本脚本家連盟理事、日本放送作家協会所属。「アイ・ラブ・ユー」(映画)「警視庁捜査一課9係」「出入禁止(デキン)の女～事件記者 クロガネ～」「TEAM～警視庁特別犯罪捜査本部」「女刑事みずき」「捜査線上のアリア」「白と黒」「水戸黄門」「かりゆし先生ちばる!」「おかしな刑事」などを担当。

応募作品数 : 1,098作品